

県産木材の利用の促進に関する指針（第2期） 用語解説集

用語	解説
I o T 技術	「Internet of Things」の略称で、意味は「モノのインターネット」で、いろいろな「モノ」とインターネットが繋がる技術のことを指す。本指針による取組では、シカによる被害抑制対策として、I o T 技術等を活用した捕獲方法を検証することとしている。
安定供給協定	木材の流通コストの低減と安定供給確保のため、必要なときに、必要な木材が安定して供給するよう、素材生産業者、製材業者等が交わす長期的な取引に関する合意のこと。
ウッドデザイン賞	木のある豊かな暮らしが普及・発展し、日々の生活や社会が彩られ、木材利用が進むことを目的とし、木の良さや価値を再発見できる製品や取組について、特に優れたものを消費者目線で評価し、表彰する顕彰制度。
S D G s	「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称で、2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた国際社会共通の目標。
木づかい推進月間	10月8日は「十と八」で「木」の日になることから、毎年10月を「木づかい推進月間」として林野庁が定めたもの。集中的な活動を行う月間として行政や各種団体、企業等の参画の下、「木づかい」の推進にかかる様々なイベントの開催など、全国において取組が展開されている。
木づかい運動	木材を利用することの意義を広め、国産材利用を拡大していくための国民運動として、林野庁が平成17年度から展開している取組。
コウヨウザン	中国・台湾原産の常緑針葉樹であり、次のような特徴がある。 ① 成長が旺盛で、成長速度はスギの2倍（材積比）、樹高は30m以上、胸高直径は1m以上に達する。 ② 幹が通直（スギと同程度）。 ③ 伐採後に切株から新たな芽が成長することから、苗木の植栽が不要（萌芽更新）。 ④ スギより製材品の強度が高く（ヒノキに近い）、耐腐朽性や耐蟻性に優れている。
固定買取	競り売りによらず、木材価格を一定期間固定して買取を行うこと。
再造林	人工林を伐採した跡地に再び苗木を植えて人工林をつくること。
C L T	板材を繊維方向が直交するように積層接着したパネル。欧米を中心にマンションや商業施設などの壁や床として普及しており、我が国においても国産材C L Tを活用した中高層建築物等の木造化による新たな木材需要の創出が期待されている。
集成材	板材を繊維方向を平行にして、長さ、幅、厚さの方向に接着した材。
主伐	利用期に達した樹木を伐採し収穫すること。間伐と異なり、伐採後、次の世代の樹木の育成を伴う。 (間伐：林分の混み具合に応じて、目的とする樹種の個体密度を調整する作業。)
少花粉苗木	花粉の少ない品種のスギ・ヒノキの苗木のこと。スギ等の花粉症に対する林業面からの対策の一つとして取り組むもの。

用語	解説
森林経営管理制度	所有者自らが経営管理できない森林について、市町村が主体となって、意欲と能力のある林業経営者又は市町村が、森林所有者に代わって経営管理を行う制度で、林業経営の効率化と森林の管理の適正化を一体的に図ることを目的としている。本県では、まずは、経営管理が行われていない森林の所有者に対して、森林の経営管理を行うかどうかの意思を確認していくこととしている（意向調査）。
森林資源情報	所有者情報、森林資源情報、集約関係情報、施業履歴等の森林に関する情報をいう。
セルロースナノファイバー	木材を原料にして、従来の製紙技術で製造した木材パルプ（紙の原料）をナノレベルまで細かくほぐした超極細のセルロースファイバー（天然の木質繊維）で、ナノセルロースとも呼ばれるバイオマス由来の素材である。
耐火建築物	主要構造部が耐火構造であるもの又は耐火性能検証法等により火災が終了するまで耐えられることが確認されたもので、外壁の開口部で延焼のおそれのある部分に防火戸等を有する建築物のこと。
森林の多面的機能	地球温暖化の防止、国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、両行な景観の形成、文化の伝承等に加え、木材生産等の森林の物質生産機能を含んだ森林がもつ多面にわたる機能をいう。
ひろしま木造建築協議会	<p>県産材の利用拡大を図る上で、非住宅分野における中大規模建築物の木造・木質化が新たな需要として見込まれることから、県では、平成 26・27 年度の 2 か年にわたり「ひろしま木造建築塾」を開講し、木造設計に精通した建築士を育成してきた。</p> <p>この講座を受講した建築士が中心となり、更なる中大規模建築物の木造・木質化に向けて森林林業・木材産業等の関係者と連携し、受注機会の拡大や技術の向上を目的に設立した協議会である。</p> <p>（平成 28 年 7 月 29 日設立総会）</p>
木育	子どもから大人までを対象に、木材や木製品との触れ合いを通じて木材への親しみや木の文化への理解を深めて、木材の良さや利用の意義を学んでもらうという活動。
木質バイオマス	再生可能な生物由来の有機性資源で、化石資源を除いたものをバイオマスといい、そのうち木材に由来するものをさす。
リグニン	木材を構成する主成分の一つで、広葉樹には 20～25%、針葉樹には 28～31%含まれる。リグニン以外の主成分にはセルロース、ヘミセルロースがある。
林業経営体	他者からの委託または立木の購入により造林、伐採などの林内作業を行う森林組合、素材生産業者などのこと。
林業経営適地	森林資源経営サイクル（植栽⇒保育⇒間伐⇒主伐までの一連の循環）での利益の確保が見込める効率的な木材生産が可能となる規模にまでまとめた事業地のこと。経営力の高い林業経営体が林業経営適地を長期的かつ広域的に経営していくことで、持続的な林業経営の確立を図ることとしている。